

- **地域の参画の重要性**  
地域社会レベルでの実践・支援が重要である。地域での繋がりや施策や取り組みへの地域の方々が参画（参加ではない）することが重要である。
- **社会的手法の導入（経済的手法、規制的手法に対して）**  
社会的にコミュニティーレベルでネットワークが形成され環境感覚が向上する手法を考える必要がある。
- **可視化による有効性感覚の実感**  
施策の推進を可視化することにより有効性感覚を醸成し、活動成果を自らが解るような評価が必要である。
- **様々な地域活動のモニタリング**  
地域コミュニティーレベルでの活動についてマクロとミクロに応じたモニタリングの重要性を認識すべき。
- **活動データベース**  
有効性感覚、プロセス所有感、評価（賞賛）、主体形成であり、連携の可視化に至る仕組づくりが重要である。それら現場の経験知のデータベース化。
- **環境ガバナンス**  
それぞれの流域の階層において共通の認識を持つことが重要である。

以上